

## ⑭ 山崎 雷司 氏 (水晶島元島民)



皆さんは小学6年生ですね。私が皆さんくらいのころ、私の実家は北方領土で捕れる海産物を扱う問屋のような仕事をしておりました。おじいさん、おばあさん、父、母、そして兄弟3人で住んでいました。私は一番末っ子の3番目です。兄は跡継ぎのために一生懸命、勉強をしていましたし、親の言うこともよく聞いていました。姉は素直に、おしとやかに子供時代を送っていたようです。末っ子の私は、やんちゃなガキ大将でした。

私は昭和7年の生まれです。私が生まれる一年前に、実家は水晶島(すいしょうとう)に缶詰工場を建てました。

皆さんは昨年の9月ころ、根室に北方領土を見に行つたと聞きました。最初に二・ホ・ロという根室市内にある道の施設、「二」は日本、「ホ」は北海道、「ロ」はロシアという名前ですが、島の様子を勉強できる施設を見学したと思います。その二・ホ・ロには、北方四島は日本古来の領土であり、日本人しか住んでいなかった領土であるという証拠も展示されていたと思います。

1階では鎌倉幕府から始まる北方領土の歴史をご覧になったと思います。

2階には高田屋嘉兵衛の北前船の模型があり、また、徳川幕府時代、300年も前のことになるのですが、北方領土にアイヌの人たちが住んでいた様子が展示されております。皆さんご存知だと思いますけれど、国泰寺、知っていますよね。厚岸にあるお寺、あれはアイヌの人たちを教育するために徳川幕府が北海道に建てた3つの寺の一つです。国泰寺は百万石の大名と同じ扱いをされていました。国泰寺には葵の紋があります。徳川幕府の証拠です。中に入ると菊のご紋があります。鐘には金が入っています。そういうわけで、厚岸も北方領土に関連のある場所だったと思います。

私が子供のとき、実家は海産商を大きくやっており、根室に本店がありました。海岸町というところですよ。

私の父は5月から9月までは根室の家にいません。母はすごく忙しくしているのに、どうして父はいないのか、不思議に思っていました。よく聞いてみると、水晶島の缶詰工場に石炭を運んだり、40名くらいの女工さんを連れて行ってカニの缶詰などを作らせていたため、いなかったとのことでした。

私は小学校に上がる前、6歳くらいのときに水晶島に行ってみたくて母にねだりました。母は、私の言うことを聞いてくれました。私の母はすごく忙しかったので、私を見てくれる人がいました。その人に連れられ、初めて水晶島に渡りました。

根室には本店があり、住宅もありました。水晶島には工場があり、住宅もありました。両方に住宅がありましたので、私が行っても何不自由することはありませんでした。そのとき、初めて缶詰というものを見ました。たくさんの女工さんがいましたが、作業は全部、手作業です。缶詰を殺菌するため、またベルトを回すため、石炭を燃やし蒸気をつくります。製造された缶詰はほとんどが輸出されました。

しばらく経つと島の状況がわかってきました。昆布がたくさん採れるのです。それを干して中国などに送っていました。

水晶島は根室半島から約7kmの位置にあります。海拔は18mくらいしかない平地です。また、根室半島から貝殻島までは3.7kmしかありません。その半分の約1,800m先は今はロシアの管理下に置かれております。

水晶島は風がよく吹きます。なぜなら、あまり木が生えていないからです。風が強いので、実のなる野菜の栽培は適していません。芋やカボチャ、大根や白菜を植えていました。

水晶島の面積は14㎢です。厚岸の大黒島は1㎢とこのことですので、14倍の広さです。

当時、水晶島には177世帯が住んでいました。

海ではいろいろな魚が揚がっていたそうです。

現在、ロシア人は住んでいません。警備兵のみ駐在しています。

水晶島にはいつごろ、人が入ってきたのでしょうか。明治9年に国有地の払い下げがありました。その際、厚岸を経由して、北方領土への入植が始まったものと思います。

明治10年に水晶島に番屋ができます。昆布漁が始まったようです。

明治30年に税庫前（ぜいこまえ）に2戸、秋味場（あきあじば）に2戸が入植しました。

明治40年に税庫前に学校ができました。また、中国向け輸出昆布の製産が始まったのはこのころです。

大正3年、第一次世界大戦が始まりました。ヨードカリの生産が始まります。ヨードカリは大砲の火薬の原料で、昆布から採れるのです。このころは100戸が定住していました。

大正5年にお寺が建ちました。正楽寺といいました。

大正7年に根室からの定期運搬船の運行が始まりました。月2回の運行です。

大正10年に中国向けホタテ貝柱の輸出が始まりました。

昭和6年に私の実家で缶詰工場を建てます。花咲ガリの缶詰を作っていました。この年に満州事変が起こります。戦争が始まると缶詰がすごく売れました。

昭和10年に郵便局が建ちます。

昭和14年に再びヨードカリの生産を始めました。私の父は当時若かったのですが、ヨードカリの生産をしていたので、戦争には召集されませんでした。しかし、戦争に召集される若者が増えるたび、昆布漁の働き手がいなくなるため、昆布の生産量は最盛期の60%程度にまで落ち込みました。

昭和18年に税庫前に日本軍の陣地ができましたが、戦況の悪化を考慮して、私は根室に引き揚げていました。

昭和20年8月の終戦の2か月前、アメリカの航空母艦が来ました。厚岸や霧多布にも来たと

思います。根室は米軍の爆撃により、中心地の半分が焼けてしまいました。

私の父は昭和 23 年、樺太（サハリン）の真岡（まおか）を經由して帰ってきました。父のいない間、母は根室で旅館を始めて、家族を支えました。焼け野原の中に 1 軒の旅館です。とても忙しかった。私はお客さんの靴磨きなどをして手伝いました。

父が帰ってきた翌年、疲れ切った母は 44 歳で亡くなりました。私は今でも母は強かった、また、母は戦争の犠牲者であったと思っています。

私は水晶島に 3 年ばかり暮らしました。とても島は楽しかった。その思い出が残っています。

北方領土は、外国の人が住んでいたものではありません。日本固有の領土です。

皆さんには、北方領土は日本固有の領土だと強く、大きく訴え、私たちの後押しをしていただくことをお願いします。

<訪問校>

- 浜中町立霧多布小学校（平成24年8月31日（水））



• 厚岸町立真龍小学校（平成24年12月6日（木））

